

平成二十四年度 青少年健全育成の集い応募作文

主催 朝霞市・朝霞市教育委員会・朝霞市青少年育成市民会議

中学生の部 優良作品

東北のためにぼくができること

朝霞第一中学校 一年 古川 雄大朗

昨年の三月十一日に東日本大震災が起きました。ぼくは、その時学校にいました。最初は小さなゆれから始まりだんだん大きくなっていききました。あんな大きな地震は初めての体験で、びっくりしました。家族や家などが大丈夫か心配になりました。

家に無事着き、テレビを見たら津波で町が飲み込まれていく様子が映されていました。ぼくはその光景を見て、なんて恐ろしいことが起こってしまったのだろうと恐怖を感じました。ぼくは地震の被害にあった人たちのために何か出来ることはないかと考え、習い事の空手の仲間たちと義援金の募金活動をしました。多くの人が協力してくれてすごうれしかったです。なぜなら、地震の被害にあった人達を心配している人が、たくさんいたからです。それに、ぼくたちの活動を応援してくれたからです。

だんだんと日がたつにつれ、津波の被害で命は助かったけど家や友達、家族を失った人がたくさんいることを知って、ぼくはとても悲しい事なんだなと思います。

そしてぼくの空手の先生が東日本の人たちや、空手が大好きな子供達を応援する活動を始めて、ぼくも応援したいと思って宮城県の石巻に連れて行ってもらいました。

石巻に到着し、石巻の子ども達は元気か心配でしたが、みんな元気いっぱい。ぼくたちのことを歓迎してくれました。そして一緒に空手の稽古をしました。

稽古の後、石巻の町に行って、小学校に連れていってもらいました。そこは津波で流されてきたものが建物に入り込み、学校の教室はぐちゃぐちゃで机もイスも無くなっていました。ぼくは、自然の力の恐ろしさを知りました。

町が元にもどるために何ができるか考えてみました。でも寄付できるお金を稼ぐこともできないし、ただ見てるだけしかできないのかと悔しい気持ちになりました。しかし離れていても何かできることが絶対あるはず。石巻の事をみんなに伝える事がぼくにできる事ではないかと、考えました。東北のいい物を買ったりすることも応援することになると思います。そして、ぼくは学校で勉強を教えてもらうことや家族や友達がいることに感謝しています。